

## 「3Way Feedback方式」と「Input-Output方式」

## 独自のシステムが威力を發揮

旧両国予備校で長年にわたり、医歯系大受験指導に携わってきたベテラン講師陣が設立した少人数制予備校が「メデュカパス」。私立医学部に特化した独自の教育システムにより、毎年、全在校生の7割が合格を果たしています。同校の指導の特色を田村和香校長にお聞きしました。



メデュカパス校長

田村 和香氏

3週間かけて1つの  
テーマを定着させる

——「3Way Feedback方式」という独自の教育システムを導入されています。

**田村** 以前から実施していた教育システムですが、生徒や保護者の方々に、より特色をイメージしてもらいやすくするために、今年度、命名しました。3つの段階を踏んで、学んだ知識の完全定着を図る方式です。

Feedback I（自律的 Feedback）は、入校時にクラス分けテストを行い、各自のレベルに合ったクラスで授業を受けます。予習を必須にしていますが、全問解答しなくてもかまいません。現時点で自分はどこまで分かっているのか、明確にしておくから授業に臨むことが予習の目的です。理解が不足している部分は授業でしっかり聞いて、授業後に復習し、分からない部分は先生に質問して、疑問を解消します。この予習↓授業↓復習の流れを確実に消化させるた

めに、朝9時から夜9時までメデュカパスにいることを義務づけています。

Feedback II（客体的 Feedback）として、翌週に、前週の授業で学んだ内容の「確認テスト」を実施します。1日1教科、50分のテストです。私立医学部の試験時間は60分が主流ですが、同様の分量の問題に50分で取り組み、解くスピードも鍛えられます。「確認テスト」は、当日採点して返却し、間違えた問題を復習して、よく分かっている部分は再度先生に質問します。クラス別に「確認テスト」の成績上位3名を掲示しており、生徒の励みにもしています。

Feedback III（主体的 Feedback）は、さらに次の週の土曜日午前中、間違えていた問題をすべてやり直す勉強です。こうして、1つのテーマを3週間かけて完全に定着させるようにしているわけです。

教えたことは忘れない  
大学入学後も大いに役立つ

——もう一つ独自の教育システム「Input-Output方式」があります。

**田村** 週2回、80分の授業です。3〜4名のグループを編成し、生徒が自分で選んだ問題の解き方を交代で発表します。事前に取り上げる問題を明示し、他の生徒も予習してから臨みます。先生から教わる受け身の形は十分に発達していても、人

に教えるとなると、異なる部分の脳が刺激されます。知識を頭の中でコンパクトに整理する力に関わる脳が開発されるのです。しかも、グループは多様な能力、性格の生徒が混在するように配慮しています。よく理解できない生徒には分かりやすい言葉で丁寧に伝えることが大切で、コミュニケーション能力が高まります。逆に、優秀な生徒からは鋭い質問が飛び、それにもよく考えて的確に対応しなければなりません。今まで使っていなかった脳が活性化される効果は大きいのです。

— 入試の面接、グループ討論などでも役立ちそうです。

**田村** もちろんです。グループ討論では、コミュニケーション能力と同時に、協調性がチェックされます。将来、チーム医療に携わる医師にとつて不可欠だからです。「Input-Output方式」の授業を通して、多様な考え方を受け入れる姿勢が養われているメデュカパスの生徒は強みを発揮できるでしょう。また、毎朝、全員が朝日新聞の「天声人語」、日本経済新聞の「春秋」を読み、書き写すことにしています。当日の話題について友人同士で話し合う姿が見られ、多様な価値観を受け入れる態度にもつながっています。

さらに、医学部ではディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングが豊富です。大学関係者からは、メデュカパスの

卒業生は真つ先に手をあげて、プレゼンテーションに積極的に頼もしいという声が聞かれます。入学後も、日常的に周りの学生に教えることが多いようで、教えた知識は忘れませんから、各大学でトップクラスの成績を収め、国家試験でも余裕で合格しているOB・OGが多いですね。

**入試問題の新傾向を分析し  
教材に反映させる**

— 教材についてもご紹介ください。

**田村** 長年、医学部受験に携わってきたベテラン専任講師が、オリジナルテキストと、難関11大学を対象とした予想問題集を作成しています。毎年の入試問題を詳細に研究し、新傾向問題を含めて改訂しています。

— 医学部で、入試問題の傾向が変わることはあるのですか。

**田村** はい。たとえば英語では、医学論文を素材に使うケースが増えています。コミュニケーション能力の重視を受けて、会話文やメールの英文などもよく見られます。いずれも高校までの授業では慣れていない形式ですから、特別な対策が必要です。メデュカパスでは、そうした入試問題の傾向をしつかり研究・分析し、オリジナルテキストや予想問題集に反映させています。ただし、英語では前期はオーソドックスな英文講読を積みます。一般的な英文解釈力を身につけることが先決だからです。

その上で、私立医学部の出題傾向に則した独特の英文に、徹底的に触れることができるように、強みがあると考えています。

**規則正しい生活と食事も  
学習上の二環と位置づける**

— 卒業生からは「面倒見の良さも魅力」という声が聞かれます。

**田村** メデュカパスでは、規則正しい食事と生活リズムの確立を、学向上の一環と位置づけています。朝9時から夜9時まで強制的に勉強させますが、夕食は30分間、時間を決めてみんなで食べます。管理栄養士が献立を作り、毎月、その献立表を家庭にも送付しています。そのほか、各家庭には、毎週、「学習報告書」を送っています。

— 家庭への「学習報告書」はどんな内容なのですか。

**田村** 出欠、遅刻・早退などの状況や、「天声人語」「春秋」の書き写しやテストのやり直しといった提出物の提出状況などです。「確認テスト」の成績も含まれており、平均点よりも10点以上低い場合は赤点で表示されます。

そのほか、寮生が病気になる時は、スタッフが病院に同行します。インフ

ルエンザが流行する時期には、毎日検温をして、手の消毒も徹底します。病気で登校できない生徒には、その日の授業のプリントを渡し、お弁当も届けます。少人数制なので、一人ひとりの状態もよく把握しており、落ち込んでいる様子のときはすぐに声をかけますから、深刻な精神状態に陥るケースはまずありません。厳しい受験勉強を乗り切つてもらうためには、学習面の指導だけをしていればいいわけではありません。こうした手厚いサポート体制で、生活面も整えることが、精神的な安定を生み、勉強への意欲を高めるといふ信念を持っています。

